

学びのデザインシート（本時）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【数学科】

1. 対象 特別支援学校 中学部2年

2人は補聴器装用。1人は人工内耳装用。3人とも聴覚を活用していて、手話と口形を使って情報を得たり与えたりしている。生徒Aは聴覚障害以外にも精神障害、学習障害を併せ持っている。生徒B、Cは単一障害である。3人とも数学に対して苦手意識が強い。

2. 単元名 第2学年「第2章 連立方程式 第2節 連立方程式の利用」（全4時間）

3. 単元の目標

知識及び技能	・2元1次方程式とその解の意味を理解したり、連立方程式の必要性和意味及びその解の意味を理解したりすることができる。 ・簡単な連立方程式を解くことができる。
思考力、判断力、表現力等	・1元1次方程式と関連付けて連立方程式を解く方法を考察し表現したり、連立方程式を具体的な場面で活用したりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	・連立方程式のよさを実感して粘り強く考え、連立方程式について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、連立方程式を活用した問題解決の過程を振り返って、改善しようとしたりする。

4. 言語活動

文章問題から読み取れる事柄を挙げていく。自分で考えたり、友達の意見を参考にしたりする。文章問題から求めたいもの・ことを見つけて求め方を考えて発表する。

5. 本時の目標

与えられた情報から求めたい2つの未知数を見つけて、連立方程式をつくり、求めたい2つの未知数の値を表すことができる。

6. 授業展開

解決したい課題や問い

2種類の商品を購入したときの金額から、2つの2元1次方程式を作り、連立方程式として解いて、それぞれの商品の購入個数を求める文章問題。

考えるための材料

前時までにとまとめた方程式を解く手順を示した掲示物。情報を整理するための対応表。

2元1次方程式をつくるための数量の関係を表す穴埋め形式の文。

対話と思考（対話を通した協働的な問題解決のプロセス）

（形態）与えられた文章の中から、求めたい2つの未知数が何かを自分で探したり、友達の意見を聞いたりする。未知数を使った数量の関係の式を自分で考えたり、友達の意見を聞いたりする。連立方程式を解くとき、加減法と代入法のどちらを用いた方が良いか考えて、理由を付けて説明する。

（時間設定）20分程度

（留意事項）聴覚障害に対する配慮（馬蹄形、補聴システム、手話など）を徹底する。

友達の意見に対する自身の考えを示すように促す。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

文章を読んだり友達の意見を聞いたり図や表を見たりして、与えられた文章から求めたいものが何か分かったり、求めたいものを x 、 y の文字を使った式でどの様に表すかが分かったりする。